

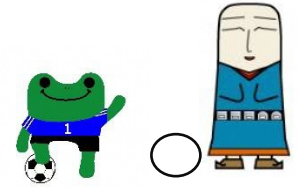
蹴鞠（けまり）なら
できます！



郡家対抗蹴鞠日本杯
応援中！

幡羅遺跡ファンクラブ会報

ハラ君通信



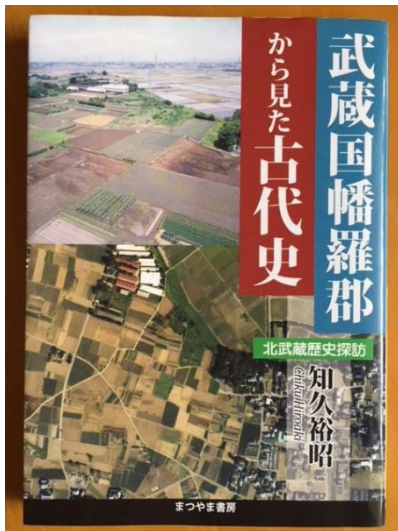
2018年（平成30年）8月8日発行 ページ増量版第4号☆

幡羅遺跡の本が出版されました！

このところ、「幡羅官衙遺跡群」の国史跡指定をお祝いするイベントが、ずっと続いていて夢のようでした。2018年1月末には、ハラファン待望の本が、出版されました！

著者は、「ミスター幡羅遺跡」こと、深谷市教育委員会文化振興課の知久裕昭さんです。

『武蔵国幡羅郡から見た古代史』まつやま書房
から絶賛発売中！
(定価1300円+税)



幡羅官衙遺跡群の事だけでなく、まわりの遺跡との関係がわかります。歴史の教科書にのっている中央の歴史と違って、幡羅郡から見た地方の歴史は、私たちに

とってより身近な歴史です。中央と地方の両方合わせて、本当の歴史になるのです。マンガ家の手塚治虫さんは、「歴史とは、あらゆる角度から、あらゆる人間の側から調べなければ、ほんとうのことは、わからないものなのである」と「火の鳥 ヤマト編」で書いています。そして、記録したものは、歴史に残ります。幡羅官衙遺跡群のことを、後世に伝えていくことが出来るのです。

4月の広報ふかやに

「ハラ君」初登場です！！



なんということでしょう！広報ふかやに「幡羅遺跡」の特集が4ページも組まれました。しかもトップ記事です。ハラ君は、大人気のふっかちゃんと初共演です。ハラ君の方がゆるキャラデビューが早かったので、(ハラ君は、H19年。ふっかちゃんはH22年)後輩が、人気者になっていくのをうらやましく思っていた時期もありましたが、今は心から応援しているそうです(M&ハラ君談)。「幡羅遺跡」のことを深谷市民の方々にも知って頂いて、大事に思ってもらえたらF. C. として、嬉しいですね。

岡部の中宿歴史公園

(県史跡 中宿遺跡)では、
復元された正倉だけでなく
マンホールのふたにも注目！

幡羅遺跡の発掘は「正倉」跡の発見からすべてが始まりました。広報ふかやにも紹介されていた、岡部の「中宿歴史公園」では、復元された榛沢郡の正倉2棟をみることができます。



それで、正倉を見学した後は、公園の中や入口近くのマンホールのふたを探してみてください。(車が通るので注意！) 写真は展示用なので、カラーマンホールですが、色のついていないバージョンが大小見つかります。美しくて珍しいデザインです。マンホールファンだけでなく、歴史ファン、もちろん幡羅遺跡ファンも必見です。

皆さんも「中宿遺跡」にレッツゴー！！

僕もマンホールのふたのデザインになりたいです



さて、国史跡指定決定前後の幡羅遺跡に関する出来事をまとめると、このようになります。

2017年 (平成29年)	イベント・講演会
11月11日(土) ～12日(日)	「幡羅遺跡」を紹介するブースを出展。幡羅遺跡ファンクラブもお手伝い。
第7回 はたら公民館まつり	
11月18日(土)	新聞発表。20日には深谷市役所本庁舎にお祝いの垂れ幕が出される。
幡羅官衙遺跡群 国史跡指定決定	
2018年 (平成30年)	
1月14日(日)	「古代の幡羅郡役所」 ＜幡羅公民館＞参加121名 講師 知久裕昭さん 吉野 健さん
国史跡指定記念 歴史講座	
1月30日(火)	「 ^{むさしのくに} 武蔵国幡羅郡から見た 古代史」 著者 知久裕昭さん
幡羅官衙遺跡群に 関する本が出版	
2月13日(火)	
幡羅官衙遺跡群 正式に国史跡指定	
3月11日(日)	「幡羅官衙遺跡群の保存と 活用に向けて」 ＜幡羅公民館＞参加125名 講師 ^{おうみとしひで} 近江俊秀さん
国史跡指定記念 講演会	
4月	広報ふかやに 「明日話したくなる！幡羅 遺跡のいろは」の特集が4 ページも組まれる。
ハラ君広報ふかや 初登場！	
6月	市報くまがやに 「国指定史跡 幡羅官衙遺跡 群の紹介」の特集が2ペー ジ、トップ記事で掲載。
市報くまがやにも特 集されました！	

＜第4回活動報告＞

第7回はたら公民館祭りに「幡羅遺跡」を紹介するブースを出展。

展示ブースにのべ330人が来場！

2017年11月11日（土）
～12日（日）

幡羅官衙遺跡群の国史跡指定発表の1週間前、「幡羅遺跡」の地元、幡羅公民館でお祭りがありました。「幡羅遺跡」を紹介する展示を出すということで、ハラファン会員もお手伝いです。

お祭りは、サークルの発表や展示が行われていて、安全地帯の「ワインレッドの心」をカラオケで歌っている方がいたり（とても上手です）、太極拳の演武があったり、子供達のダンスがかわいかったりして、楽しい雰囲気でした。

2日間、10名の方が、午前・午後のシフトに分かれて、「幡羅遺跡」について説明したり、ハラ君折り紙やペーパークラフトを配ったり、展示を見に来て下さった方々の人数を数えたりしました。地域のお祭りなので、地元の方が多く来て下さったようでした。「幡羅遺跡のことを知っていますか？」と聞いてみると、「もちろん知っている」という方もいましたが、「よく知らない」「（近くなのに）全然知らなかった」という方も結構いらっしやいました。

車いすの女性の方がいらして、「私は昔、西別府廃寺の遺跡の発掘に参加していたんですよ。瓦がたくさん出て、楽しかったですよ。（展示のパネルや土器を眺めながら）懐かしいですね」と話されていました。ボランティアに参加したA²さんから、「幡羅郡役所の全体風景がわかる写真や、ジオ模型、廃棄土坑から発掘された骨類と対比した実物の図、紡錘車の使い方の図などがあると、説明に説得力がつかます」という貴重な意見を頂きました。今後、参考にしていきたいと思えます！

展示を見に来て下さった方々、そのままお手伝いで片付けを手伝ってくれたり、ハラ君折り紙と一緒に折って下さった方々、ボランティアに参加して下さった方々、微力ながら「幡羅遺跡」の宣伝になったと思います。本当にありがとうございました！

国指定記念歴史講座「古代の郡役所」

講師 知久裕昭^{さん} 吉野 健^{さん}
幡羅公民館 2018年1月14日（日）

幡羅官衙遺跡群が国指定史跡になって、初めての歴史講座です。講師のお2人は、幡羅遺跡発掘の第一人者「ミスター幡羅遺跡」こと知久裕昭さんと、西別府廃寺・西別府祭祀遺跡発掘の^{かなめ}要、江南文化財センターの^{チーフ}所長、吉野 健さんです。幡羅官衙遺跡群にとって大事な方達です。

さて、まず知久さんの「幡羅遺跡」のお話です。知久さんの解説は、毎回話す内容が少しずつ違うので楽しみです。会場は満員です。歴史ファンだけでなく、地元の「幡羅遺跡」初心者の方々も多いようです。ハラファン会員もたくさん来ています。今回は、聴衆に合わせて、基本的な内容のようです。

幡羅遺跡は、とてもラッキーな遺跡です。最初に正倉跡が発見され、検証によって、幡羅郡家の正倉であると確認できたために、早い段階から保存のための発掘がおこなわれてきました。これは「禁欲的な発掘」なのだそうです。「ああ、もうちょっと深く掘りたい」というのを我慢して、未来に遺跡を残すために、最小限の確認調査でとどめておくのだそうです。

また、幡羅郡家の位置も幸いしました。深谷市と熊谷市の境にあって、畑が広がり、ほとんど開発が行われていない地域だったのです。この話を知久さんがすると、会場から、「奇跡だ」という声

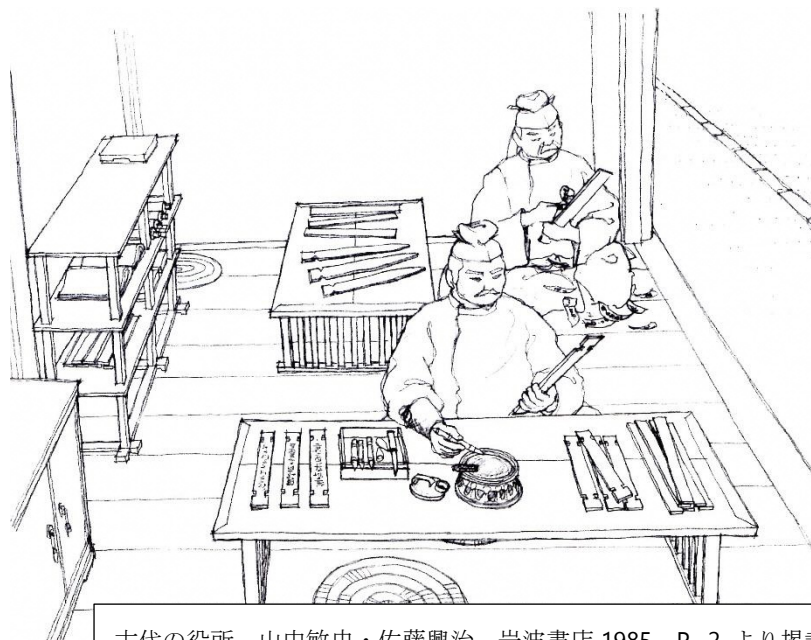
が上がりました。幡羅郡家跡の保存状態は、とても良好と言えます。

そして、保存状態が良いために、正倉院（南）の変遷だけを見ても、古代の役所、幡羅郡家の成立（小さな正倉が造られる）→発展（規模が大きくなり、柱も丈夫なものになる）→衰退（また小さな正倉になる）→廃絶（正倉がなくなる）までを知ることができます。これは、とても貴重なことです。

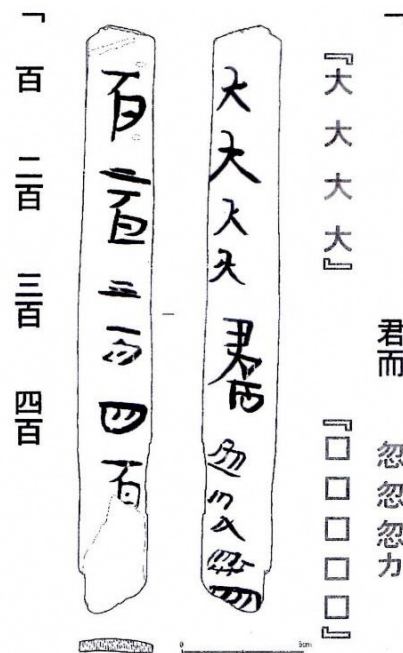
私がおもしろいと思ったのは、正倉院のあった時期を知るのに、土器（遺物）を見て判断できるということです。正倉が造られる前は、集落があり、土層からは生活に使う土器が発掘されます。そして、正倉が造られ、機能している間は、よく

掃き清められているために、土器は出てきません。その後、正倉がなくなると、また集落になり、生活に使う土器が発掘されるのです。この正倉が存続していた前後の土器は、同じように見えますが、実は違うのです！例えば、電話ボックスにも時代によって変化があるように（私には同じに見えていたが）土器は細かく分類されていて、年代の「ものさし」になる土器があり、いつのものかわかるそうです。それで、上層から10世紀後半の土器（第4号竪穴建物跡^{より}）、下層から7世紀後半の土器（第6号竪穴建物跡^{より}）が出土したので、その間の期間（7世紀末～10世紀前半）は正倉院が存続していたと判断できるようです。違いの分かる方はすごいですね！

ちょっとここで休憩タイムです。



古代の役所 山中敏史・佐藤興治 岩波書店 1985 P.2 より掲載



第5図 西別府祭祀遺跡第6次調査 河川跡(第2トレンチ)出土木簡

幡羅郡家の曹司^{そうし}でお仕事中のXさん（手前）とYさん（奥）です。何か2人でお話しています。

Yさん 「朝からずっと木簡を削っていますが、そろそろ手が痛くなってきました。」

Xさん 「少し休憩されたらどうですか。ところで、割れてしまったり、薄くなって使えないものがあったら分けてもらえませんか。」

Yさん 「いいですよ。どうせ捨ててしまうか、カマドの焚き木にするぐらいですから。」

Xさん 「うちの息子たちが、私のまねをして木簡に文字を書きたがるんです。役人になったつものよ

うです。少し教えただけですぐ覚えて、上手に文字を書くんですよ。数も数えられます。私が言うのもなんですが、天才じゃないかと思うんです。将来は、都で教育を受けさせなければ。」

Yさん 「その木簡を見てみたいですわね」

Xさん 「私もお見せしたかったのですが、息子たちが先日、友達に見せるつもりで、木簡を持ったまま出かけたようです。その後、条里水田の方にカエルを採りに行って、水路に落としたりしいのです。大事なものだから、持ち出しはいけないとよく言い聞かせていたのですが。」

Yさん 「子供ですから仕方のないことです。今日、下の端が欠けてしまった木簡がありますから、持って行ってあげて下さい。」

Xさん 「ありがとうございます。次こそ息子たちの書いた木簡を見てやって下さい。びっくりしますよ」

Yさん (聞こえないように小さな声で)「やれやれ、Xさんは親バカだなあ・・・」

このやりとりの1300年後、西別府祭祀遺跡から、この習書木簡が出土したのでした。

(この物語はフィクションです)

次は、吉野さんのお話です。西別府祭祀遺跡の発見は古く、なんと昭和38年(1963年)に発見されました。地元の小学生が、湯殿神社裏の堀から石製模造品を見つけたそうです。幡羅遺跡の正倉跡の発見、平成13年(2001年)よりも38年も前に発見されていたのは驚きです。その後西別府廃寺の発掘も平成2年(1990年)より行われていたそうです。祭祀遺跡と寺院跡が先に発見されていたことで、幡羅遺跡で正倉跡が発見されたとき、幡羅郡家の正倉であると判断する裏付けになったのですわね。

西別府祭祀遺跡は遺物がとても面白いです。石製模造品等が並べてある図は、眺めているだけで楽しいです。発見した小学生達も楽しかったでしょうね。

西別府祭祀遺跡の祭祀行為の変遷も面白いです。始めは地元の有力氏族が、湯殿神社の水神様に対する祭祀を石製模造品を使って行っていたのが、7世紀末、幡羅郡家が成立するころには、土器を使った律令祭祀に変化しました。木製の祭祀具を使わない独自の方法で祭祀を行っていたそうです。

(神と仏への祭祀を融合したような、幡羅郡家の祭祀は個性的ですわね)

そして、9世紀後半頃、墨書土器を使ったより仏教的な祭祀に変わり、10世紀後半～11世紀前半には政治的な不安から盛んに祭祀が行われたということです。このころ幡羅郡家も廃絶したようです。従来の律令体制が崩れていく中、地方では郡家の終わりを予感しながらも、必死に祭祀を行って神様や仏様にすがるしかなかったのですわね。また、幡羅郡家が衰退していったのには、災害も関係があったようです。

818年(弘仁9年)に関東北部を震源とする大地震がありました。「山崩れ谷埋まること数里」(類聚国史)とあります。深谷市上敷免にある「^{さう}沼西遺跡」にこの地震の痕跡が残っています。幡羅官衙遺跡群から、4.5kmのところであって、妻沼低地にあり、近くには幡羅郡の^{えんぎしき}延喜式内社である^{にれやま}楡山神社もあります。この地震では、液状化がおこり、地割れや噴砂の跡が遺跡のいたるところで発見されて、住居や溝が壊されていました。幡羅郡域の低地にあるムラや水田、畑はかなりの被害があったと思われ、安定した台地上にあった幡羅郡家跡でも大きな被害を免れなかったでしょう。この大地震も、幡羅郡家の衰退の原因の1つかもしれません。

国史跡指定記念講演会

「幡羅官衙遺跡群の保存と活用に向けて」

講師 おうみとしひで 近江俊秀さん

幡羅公民館 2018年3月11日(日)

講師の方は、「文化財のプロフェッショナル」文化庁文化財調査官の近江俊秀さんです。会場は今日も満員です。ハラファン会員もたくさん来ています。今回は、女性の方も多く来ているような気がします。

幡羅官衙遺跡群は、とてもレアな遺跡だそうです。国史跡に指定されるのは、全国に46万カ所もある遺跡の中のたった0.4%だということです。

ちなみに0.4%とは？

算数の問題です！

お父さんが、1000円の中から、0.4%おこづかいをあげようと言いました。喜んで手を差し出すと、いくらもらったのでしょうか？

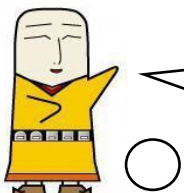
答え 4円

1000円もあるのに、4円しかもらえない、「たったのこれだけ？」という感じが、幡羅官衙遺跡群が国指定に選ばれた確率なのです！

国史跡指定の理由は？

- ☆ 保存状態が、とても良いこと。
- ☆ 郡役所、寺院跡、祭祀場の3つがそろっていて、郡家の全体像が分かること。
- ☆ 遺跡があまり壊されてないので、郡家の成立から廃絶までの変遷を知ることができ、日本の国の歴史を知る上でも重要だということ。

畑の下には重要な遺跡がたくさん眠っている、まるで「関東の明日香村」なのです！！



幡羅官衙遺跡群
ハンパないです！

近江さんは、中央の歴史は、政権側から見た美しい話しか書いていないので、その出来事が実際にあったかを知るには、地方の歴史を調べて、確認することが「本当の歴史」を知ることだと話されていました。幡羅郡家の成立から廃絶を知ることが、律令国家(天皇中心の中央集権国家)の始まりから終わりを知る手がかりになるなんて、すごいですね！そして、郡家によって、国から与えられた役割が違うので、それぞれ個性があるということです。

幡羅官衙遺跡群の個性的なところは？

☆幡羅郡の位置。

(とうざんどうむさしのみち 東山道武蔵道で、こうすけのくに 上野国から武蔵国へ入る玄関口に位置する幡羅郡は、陸上交通の要所。)

☆郡家がでかい。正倉域も広い！

(広い正倉は、北へ向かう軍隊の食糧の備蓄にも利用されたのではないかと推測。政治・軍事的役割)

☆幡羅郡家は、古代の主要道路沿いになく、わき道から入る。メインストリートは、斜めに郡家の中を通り、郡庁ではなく祭祀場か、水路との接点に向かっている。(水上交通の要所でもある)

このように、幡羅官衙遺跡群は、国の宝であり、地域の方々にとってもすばらしい財産です。大事な遺跡であるを知ってもらって、地元ならではの活用方法を、大人も子供もみんなで考えていったらいい、というお話でした。ありがとうございました！

<幡羅遺跡関連イベントお知らせ>

幡羅官衙遺跡群 国史跡指定記念シンポジウム

2018年11月10日(土)

深谷市民文化会館 大ホールにて

<ハラ君通信編集部>

☆ハラ君(編集長) ☆S(紙面担当)

☆O(幡羅遺跡 F.C. ファンクラブ 幹事) ☆U(同幹事)